

日蓮大聖人御書全集

さじきのにようぼうごへんじ

棧敷女房御返事

むりようむへん くどく こと

（無量無辺の功德の事）

新版
1704
ゝ
1705

さじきのようぼうごへんじ　むりようむへん　くどく　こと
棧敷女房御返事（無量無辺の功德の事）

けんじがんねん　がつ　にち　さい　さじきのようぼう
建治元年（'75）5月25日　54歳　棧敷女房

によにん　みず　器　もの　によにん　や

女人は水のごとし、うつわ物にしたがう。女人は矢のごと

ゆみ　番　によにん　舟　楫　任

し、弓につがわさる。女人はふねのごとし、かじのまかする

によにん　夫　盗　びと　によにん

によるべし。しかるに、女人は、おとこぬす人なれば女人ぬ

びと　おう　によにん　后　ぜんにん

す人となる。おとこ王なれば女人きさきとなる。おとこ善人

によにんほとけ　こんじよう　ごじよう

なれば女人仏になる。今生のみならず、後生もおとこによ

ひようえ　左　衛　門　殿　ほけきよう　ぎようじや

るなり。しかるに、兵衛のさえもんどのは法華經の行者な

男　妻

り。たといいかなることありとも、おとこのめなれば、

ほけきよう によにん

ほとけ 知

そうろう

法華經の女人とこそ仏はしろしめされて 候らん、また

われ 心

發

ほけきよう おん

おん 帷

送

我とところをおこして、法華經の御ために御かたびらおく

給 そうろう

りたびて 候。

ほけきよう ぎようじゃ ににん

しょうにん かわ 剥

もんじ

法華經の行者に二人あり。聖人は皮をはいで文字を

写 ぼんぷ

着 そうろう 帷

ほけきよう

うつす。凡夫はただひとつきて 候 かたびらなどを法華經

ぎようじゃ くよう

かわ 剥

ほとけ 納

たも

の行者に供養すれば、皮をはぐうちに仏おさめさせ給う

ひと 帷

ほけきよう ろくまんくせんさんびやくはちじゅうし

なり。この人のかたびらは、法華經の六万九千三百八十四の

もんじ ほとけ 進

たま

ろくまんくせんさんびやく

文字の仏にまいらせさせ給いぬれば、六万九千三百

はちじゅうし

ろくまんくせんさんびやくはちじゅうし

ほとけ

八十四のかたびらなり。また六万九千三百八十四の仏、

いちいち　ろくまんくせんさんびやくはちじゅうし　もんじ

一々、六万九千三百八十四の文字なれば、このかたびらも

帷

またかくのごとし。

春　の　せんり　草　満　そうら

たとえば、はるの野の千里ばかりにくさのみちて候わん

少　まめ　ひ　草　放

に、すこしきの豆ばかりの火をくさひとつにはなちたれば、

いちじ　むりようむへん　ひ

一時に無量無辺の火となる。このかたびらも、またかくのご

ひと　帷　ほけきよう　いっさい　もんじ　ほとけ

とし。一つのかたびらなれども、法華經の一切の文字の仏

奉

にたてまつるべし。

くどく　ふぼ　そふぼ　ないしむへん　しゅじよう　及

この功德は、父母・祖父母、乃至無辺の衆生にもおよぼ

わ　愛　夫　子　もう

してん。まして、我がいとおしとおもうおとこ・こは申す

およ

思

に及ばずと、おぼしめすべし。

きようきようきんげん
恐々謹言。

ごがつにじゅうごにち

五月二十五日

にちれん

日蓮

かおう

花押

棧敷 にようぼうごへんじ

さじき女房御返事